これからのわがまち物語

私たちの先達はその時々の禍を乗り越え、今のまちをつくってきました。 そこには大切な物語があります。

これからの物語をつくっていくのも今地域に暮らす私たちであり、 その遺伝子を継承する次の世代の人たちです。

わがまち物語という終わりなきドラマづくり。

脚本家は? そして主役は?

一緒に考え、行動することから、困難を乗り越え、

安心が、元気が生まれていくことと思います。

人のつながりを大切に これからの<u>私たちの物語</u>をつくっていきましょう!

ひらつか地域づくり市民大学の目的と理念

地域の様々な団体や個人をつなぎ、地域課題などに住民自らが取り組み、住みよい 地域づくりを進めていくための人材の育成や地域活動に携わる人材のすそ野を広げ、 協働社会の基礎をつくります。

- 1. 自らの学びの成果を地域の中で活かす「協働の担い手」を育てる
- 2. 地域住民や市民団体が相互に連携・協力して「協働の輪」を拡げる
- 3. 地域の課題解決に向け、住民が知恵と力を出し合って取り組む 「協働のまちづくりの基礎」をつくる

主催 平塚市 (協働推進課・中央公民館・福祉総務課)/NPO法人湘南NPOサポートセンター

発行: 2022年4月吉日

発行者:特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

企画・監修・編集:鈴木・坂田・氏家

撮影・執筆:鈴木・坂田・氏家・長谷川・田中・津田・岡部・

脵・大和田

協力:平塚市協働推進課 平塚市福祉総務課 平塚市中央公民館 横内公民館 豊田公民館 城島公民館 土屋公民館

特定非営利活動法人

从 湘南NPOサポートセンター

〒259-1517 平塚市長持568-5 URL http://snposc.org e-mail shonan@snposc.org

第9回ひらつか地域づくり市民大学開催報告

新しい地域づくりに向けて、みんなでチャレンジしてみませんが?



第1回

12月12日(日)「空き家・空き地問題から地域づくりを考えよう!」 講師:石川 岳男 氏(前日本都市計画家協会 副会長・(一財)計量計画研究所 主幹研究員)

第2回

1月16日(日) 「公園・広場の遊び方〜公園コミュニティづくり〜」 講師:神谷 秀美 氏(NPO幕張海浜公園を育てる会 副理事長・(株)マヌ都市建築研究所 取締役)

第3回

2月6日(日) 「誰もが参加したくなる場のつくり方と運営のコツ」 講師: 岡本 溢子 氏(NPO法人さくら茶屋にししば理事長)、 阿部 茂雄 氏(同事務局長)

今回はメイン会場のひらつか市民活動センター(実践講座第2回は崇善公民館)と市内4か所の公民館をオンラインで繋ぎ、バーチャル/リアリティーのハイブリッド方式を試みました。

また、新型コロナ禍での開催となったため、万全な感染防止対応をすべく参加者の検温、マスクの着用、アルコール消毒、ソーシャルデスタンス等を踏まえて実施しました。

特定非営利活動法人



本書は令和3年度、平塚市協働推進課、平塚市中央公民館、平塚市福祉総務課、NPO法人湘南NPOサポートセンターが協働して実施した「第9回ひらつか地域づくり市民大学」の報告書です。

市長あいさつ

長引くコロナ禍により、地域のコミュニティ活動が中断されるなど、地域活動にも 多大なる影響が及んでいますが、皆様には地域の絆が途切れないよう、創意工夫を重 ねながら活動に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

昨年に引き続き、市民活動センターと地区公民館 4 館をオンラインでつなぎ、リア ルとオンラインのハイブリッドで実施となりますが、これからの皆様の活動の力とな り、各地区の課題解決に向けた取り組みのヒントになれば、とても嬉しく思います。 どうぞよろしくお願いいたします。



今回講座のねらい

この2年間、新型コロナウイルス感染防止対策の中で、社会生活は大きく変わりました。会議やイベントなどの中 止や延期を余儀なくされ、地域のつながりも希薄になってきた感があります。ウイズコロナ社会のニューノーマル(新 しい常識・道徳観)へ、共生・共助から共創へと発想を変えながら地域づくりに取り組んでいくことが求められています。

今回の講座は人生100年時代ともいわれるこれからの時代を見据え、地域のつながりを共に考え、小さなことから 実践していく大切さを学んでいくことをねらいにしました。

講座のテーマ 新しい地域づくり・居場所づくりに向けたチャレンジ

人生100年時代に向けて

- ・余暇時間、地域の資産を活かす
- ・ふれあい、交流の「場」と「人」のつながりの再構築
- ・「つくる」から「つかい」、「うみだす」へ
- ・前例、既定を「知恵と工夫」で乗り越える意欲
- ・官と民が協働する「挑戦と実践」

各講座の概要

12月12日(日)13:30~15:30 「空き地・空き家問題から地域づくりを考えよう」

目的: 高齢化が進むとともに、空き家や空き地が地域の課題となっています。 その活用方法によって、地域のコミュニティーや、活性化につながることも あります。講座では焼津市、浜松市、八王子市、神戸市等での空き家・空家 問題の新しい取り組み事例から地域づくりへの活用を学びました。



■ 空き家・空き地活用のポイント ■

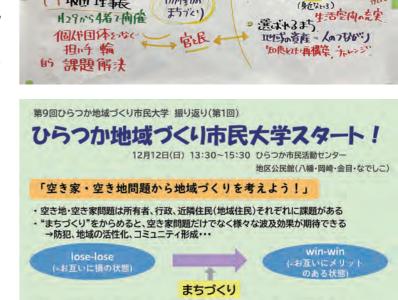
- ・空き地・空き家問題は所有者、行政、近隣住民(地域住民)それぞれに課題がある。 →触れられたくない。手を出しにくい。税金を使うことに合意が得られない。
- ・『まちづくり』にからめ、利用の仕方について地域で考え、提案し、動いてみる。 例: 寄り合い処としてのカフェ、みんなの図書館、防災広場(平時はポケットパーク)
- ・まちの活力と魅力を高め、防犯・防災や生活の質の向上を実現するための持続可能な管理・運営へとつなげていく。 →lose - lose = お互いに損の状態から、win - win =お互いにメリットのある状態に
- ・地域主体の運営と行政の支援の活用による連携体制を強化していく

■ 参加者のアンケート・意見 ■

- ●まちづくり、地域市民活動について講演いただい て、コミュニケーションを通じて繋がりを持つこ とが、長期的に見て活性化になる点が理解できた ことが良かった。
- ●ごく最近、空き家問題で苦労したので、空き家問 題が全国的な問題で、簡単には解決しないという ことを理解できた。
- ●空き家については気になっていたので、他市の事 例などを含み話が聞けて参考になった。
- ●自分の問題としてとらえる事、地域で対応して行 くことなど、考えなければいけないと"気づき" があった事は良かった。
- ●行政が関われない法的な問題はどの様に解消して いくのか、そして地域を行政がサポートしていく 具体策を一緒に考えていければと感じた。



ひらつか市民活動センターの様子



講座の概要を瞬時に模造紙に描き会場内で共有するグラフィック

2021,12,12

3回修了時日間。

- 今回 書題設定終待

二 20年, 25万人主十一个

~新いたはがいに向けて~

以降20年,急重=高齡化上人口消少

パルトリッア調査 もって 70代以上、私事、が増える日本者

ファシリテーションの手法を用いました。(第2回・第3回も同様)

第9回ひらか地域心服博

一社論題

野木な 470公民館を

口 波第 75十

2 落合帳

口口描画中.

地域のながりかる

地田理

ときれないようし

第1回講座概要の紹介(平塚市中央公民館HPより)

空き地・空き家の利活用について、他市の事例からヒントを得ることができましたか?

「公園・広場の遊び方~公園コミュニティづくリ~」

地域の問題は地域全体で考え、行動していきましょう!

1月16日(日) 13:30~15:30



なでしこ公民館の様子



岡崎公民館の様子

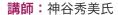
■ 第1回講座のまとめ ■

空き家・空き地の問題はこれからも増加していくことが予想されます。所有者との合意の下 で地域の共有資産として、地域住民にとってメリットを感じられる活かし方、負担のない運 営管理の仕方のアイデアにチャレンジしていくことが大切です。

- ・地域の資産として利用・活用
- **→ 語らい、学び、防災など**
- ・地域ニーズの集約と所有者の合意 → 考える場、運営する仕組み
- ・地域主体の管理へのアクション → 行政からの知恵の引き出し

1月16日(日)13:30~15:30 「公園・広場の遊び方~公園コミュニティづくり~」

目的:公園や広場は、自然環境の保全の他、子どもたちの遊び場、高齢者の 憩いの場と共に市民の身近なコミュニケーションの場でもありますが、多様 な価値観から本来目的とは違う方向に進んでいるようです。講座では、海浜 幕張公園での取り組みを事例に地域住民主体の公園や広場の自由な使い方と 運営の工夫を学びました。



■ 公園コミュニティづくりのポイント ■

- ・今までは人口増加を背景に"緑"と"オープンスペース"の量の整備を急ぐステージだった。
- →これからは、都市のため、地域のため、さらには市民のためを重視する時期
- ・クレーム対応から「ひなたぼっこ」と「散歩」になってしまった公園を本来の「自由に使える」公園へ戻すための 利害調整が重要となる。
- →癒しのコミュニケーションを求める人たちの出会いと交流の場
- ・地域で運営管理していくこと、みんなの居間として利用を考えていくことを共有する。
- →子育てには大人の男性と友達の存在が必要
- →行政主体ではなく、地域、ボランティア主体の体制へ
- ・地域全体で公園の役割や使い分けを考え、排他的、画一的にならない工夫が必要である。





第9回ひらつか地域づくり市民大学 振り返り(第2回) 公園の「遊び方」について話し合いました! 1月16日(日) 13:30~15:30 ひらつか市民活動センター 「公園・広場の遊び方~公園コミュニティづくり~」 ・地域による積極的な公園の利活用や、コミュニティづくりには「遊びごころ」が大切・公園は本来色々な使い方ができる→利害調整のための運営体制が課題 個々の公園利用の可能性(やりたいこと)から考える まずはこれまで屋内でやっていた普通のことを 少人数で公園・広場に持ち出してみる 公園ごとに役割分担をして、 地域で運営すれば、楽しく自由な使い方ができる ★ポイントは 「排他的」・「画一的」にならないこと! 公園・広場の遊び方について、幕張海浜公園の事例からヒントを得ることができましたか?

第2回講座概要の紹介(平塚市中央公民館HPより)

「大きく」やろうとするのではなく、「小さく」やろうとしてみる必要性を実感しましたね。

次回予告:第2回 「誰もが参加したくなる場のつくり方と運営のコツ」 2月6日(日) 13:30~15:30

なでしこ公民館の様子



金目公民館の様子

■ 参加者のアンケート・意見 ■

- ●公園の「活かし方」ではなく「遊び方」を考えることの意 味が分かった。一般的に規則の多い公園の一つ一つを丁寧 に遊び場に変えて来た事に熱意を感じます。
- ■公園が地域のコミュニケーションの場として重要と思って いたがまさにその通りでより一層強く感じ、自分が行動し なければと気づいた。
- ●NPOであるからかも知れないが後継者を育てる努力もある と思う。その点にも触れて欲しかった。
- ●いつでも、だれでもというコンセプト、即応性が大事とい うメッセージも納得した。
- ●「行動する側が楽しくなければ」という点は共感する。賛 同者を集められたエネルギーが素晴らしく、アイデアを素 早く実行に移すなかなか出来ない事で参考になった。



八幡公民館の様子

■ 第2回講座のまとめ ■

公園利用に制約が多いと感じている方が多いと思われます。誰のための何のための公園なの かを話し合い、「遊び心」を持ちながら人のつながり、コミュニティを醸成していく場として、 楽しく運営していくことが大切です。

- 遊び心と実験からのスタート
- ・クレーム対応から共感づくりへ
- ・安全に留意した地域の"居間"へ
- **→ "認められないこと"の打開**
- **→ 世代を超えた参加の仕掛け**
- → 楽しく自ら運営管理する体制









八幡公民館

岡崎公民館





なでしこ公民館

ひらつか市民活動センター

2月6日(日)13:30~15:30

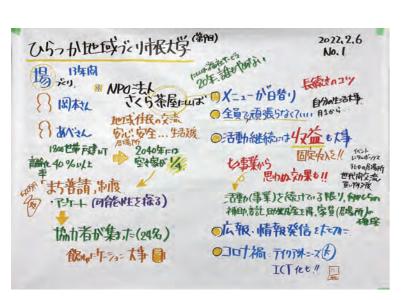
誰もが参加したくなる場のつくり方と運営のコツ」

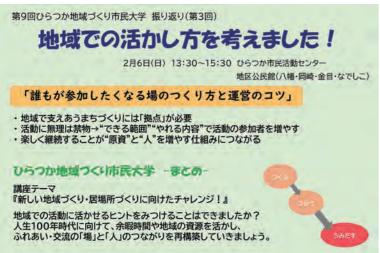
目的:市内には様々な居場所づくりが展開されていますが、次の担い 手がいない、ボランティアの活用が上手くいかないなど共通の悩みを 持っています。最終回は、横浜市金沢区でコミュニティカフェを運営 する「さくら茶屋にししば」での取り組みを事例にみんなが楽しく参 加でき、持続性を持って運営する秘訣を学びました。

講師: 岡本溢子氏、阿部茂雄氏

■ 公園コミュニティづくりのポイント ■

- ・日々の活動を通して地域住民の声を聴く、ニーズを拾う(アンケート調査等)が重要である。
- →地域の要望に耳を傾ける。物事の決定は基本全員参加。スタッフ同士の交流も大事に。
- ・みんなで支えあうためには活動の継続とそのための収益も大事となる
- →固定収入の確保。子どもの居場所・ランチの提供・趣味の教室など多世代の居場所
- →広報誌の発行(毎月2,800世帯に全戸配布)による幅広い理解と協力
- ・活動に無理は禁物、できる範囲、やれる内容で活動の参加者を増やすことが大切である
- →ボランティアに対する成功の秘訣は楽しむこと
- →人にあった持ち場、役割りを、そしてその人を信じること





第2回講座概要の紹介(平塚市中央公民館HPより)



八幡公民館の様子



岡崎公民館の様-



金目公民館の様子

■ 参加者のアンケート・意見 ■

- ●いつでも、だれでもというコンセプトが素晴らしい。即 応性が大事というメッセージも納得した。
- ●「行動する側が楽しくなければ」は共感する。(なでし こ青少年指導員のモットーでもある)
- ●自分も日頃から地域づくり活動を行っている中で参考に すべき内容が何点かあった。
- ●地域の問題にいち早く気付き立ち上がった所。賛同者を 集められたエネルギーが素晴らしいです。
- ●年齢層も活動種類も幅広いのに感心した。アイデアを素 早く実行に移すなかなか出来ない事で参考になった。



ひらつか市民活動センターの様子

■ 第3回講座のまとめ ■

市内各地区で様々な工夫をしながら地区福祉村の運営、居場所づくり等に取り組んでらっし ゃいます。地域のみんなの共助、支えあいを柱に継続を力に、やる気を絶やさず、数年先を 見据えていくことが大切です。

- ・ふれあう活動から支えあうまちへ → できること、したいことの実践
- ・状況変化に応じた工夫と取り組み → 全員参加のニーズ把握と合意
- ・楽しく継続する地域のつながり → "原資"と"人"を増やす仕組み

これからの地域づくりに向けて

今回の3つのテーマはこれからの地域の暮らしや人と人のつながりを考えるうえで、とても大切な課題だと思われ ます。誰かが何かをしてくれると願うことから、地域の様々な世代の人たちがその思いを共有し、かたちに、そして 楽しく行動にしていくことが大切であることを再確認しました。

直面する問題を起こり得る課題を"わがごと"としてとらえ、地域と行政が連携してできることから始め、やってい きたいことに向け、共に知恵を出し、創りあげていく仕組みをつくっていきましょう。

●役員中心型の労働から多世代参加型の「働楽」へ

- ・地域の人たちにとって必要なこと(活動)と場の確認
 - →"これまで"にとらわれない"これからの"ニーズを把握していく
 - →次世代も含めて自ら楽しく動きたくなる活動へ仕立てていく
- ・役員中心型から協力者連携型の企画運営体制へ
 - →サポーターとしての幅広で緩やかな参画

●できることの「実験」からやりたいことへの「更新」と「実践」

- ・「現行の法・制度上できない」から「新しい運用で協力して試す」
 - →暫定、試行、実験から思いの共感と実行可能性を共有していく
 - →地域側からの発案と行政側の受入れで一緒に段階的に変えていく
- ・「やればできる感」の共有・積重ねによるポジティブな協働へ
- →若い世代のモチベーションアップを行動につなげていく

●地域主導の「わがまち運営」していく組織化をめざして

- ・地域公益の維持・向上のための収益活動とその受け皿づくり
- ・持続性と自立性を備えた地域運営・管理していく法人化